

小学校での実践

ICT活用のベテランの場合



石山教諭

資料からたくさんの方に気付かせたい

ワークシートを簡単に
つくりたいか

資料づくりの時間を
短縮したい


My教科書エディタを使ってみよう!

My教科書エディタ
=デジタル教科書の
編集機能で、資料
やワークシートが
編集可能

授業プラン(小学6年 社会)

- 単元名 「明治の国づくりを進めた人々」
- ねらい 明治維新の改革の大きさに興味・関心を持つ。
- 授業の流れ



	主な学習活動	ICT活用の目的とポイント
導入	1 江戸時代と明治時代の学校の様子を資料で観察し、その違いに気付く。	・じっくりと資料を観察させるためにMy教科書エディタで作成したワークシート(掲示資料と同一)を活用する。
展開	2 学習課題をつかむ。 明治時代になってくらしの様子がどのように変わったかを考えてみよう 3 江戸時代と明治時代の様子を比較する。 4 気付いたことを発表する。	 ・気付きを共有するためにMy教科書エディタの資料を大型テレビで提示する。 ・個の気付きを広げるためにワークシートに記入させる。
まとめ	5 次時の確認をする。	

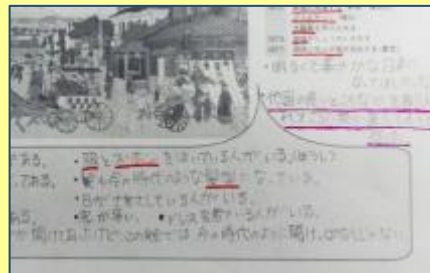
ICT活用の効果

資料を読み取る力の高まり

- ・資料を精選してじっくり観察
- ・拡大資料で気付きを共有
- ・ワークシートの活用で気付きの広がり

教材研究の深まり

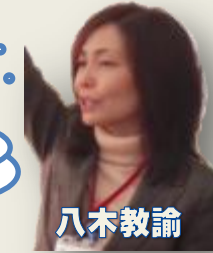
- ・資料作成時間の短縮
→資料の精選、読み取りの視点の吟味



～ワークシートの記述例～
児童の気付きがいっぱい!

中学校での実践

ICT活用のビギナーの場合



八木教諭

学校にある機器で効率的に説明できないか

漢文のリズムに楽しく慣れさせたい

私でも簡単にできるものがないか


実物投影機を使ってみよう!
10min.ボックスを使ってみよう!

10min.ボックス
=NHKの学校放送・NHKデジタル教材、web上で視聴可能

授業プラン(中学1年 国語)

- 単元名 「いにしへの心にふれる(矛盾)」
- ねらい 書き下し文を繰り返し音読し、漢文と日本語の違いについて考える。
- 授業の流れ



	主な学習活動	ICT活用の目的とポイント
導入	1 白文、訓読文の読み方を考え、発表する。	
展開	2 訓読文、書き下し文の成り立ちを理解する。 3 学習課題をつかむ。 書き下し文を繰り返し音読し、漢文のリズムに慣れよう →書き下し文を音読する。 4 学習課題をつかむ。 漢文と日本語の違いについて考えよう →グループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文に興味・関心を持たせるために、10min. ボックスを視聴させる。 ・集中力を高めさせるために実物投影機で書き下し文の一部を拡大する。 ・暗唱意欲を持たせるために音読させる書き下し文の一部を隠して提示する。 
まとめ	5 書き下し文を視写する。	

ICT活用の効果

説明時間の短縮

- ・デジタルコンテンツの利用
→話し合いの時間の充実

興味関心の喚起

- ・10min. ボックスの視聴
→漢文への興味・関心の高まり

集中力の持続

- ・提示の工夫
→音読する箇所の限定



～話し合い活動の様子～
漢文と日本語の違いについての活発な意見交換!

○教員のICT活用の現状

- ・教員のICT活用能力は向上
- ・授業での活用推進が課題
～平成23年「学校における教育情報化の実態等に関する調査」結果より(文部科学省)～

○機器の配備状況

- ・すべての小中学校に配備
実物投影機、電子黒板、大型テレビ

○ICT活用の期待

- ・児童生徒にとって「分かりやすい」
- ・教員にとって「教えやすい」

～教員の思いを大事にしたい～
身近にあるICT機器を活用したイメージ
「ちょっと試してみよう」
「ちょっと使ってみよう」

目指したい!
・教員の指導力向上
・児童生徒の学力向上

ICT部会のリーダー
関教諭

ICT活用のポイント

○授業の一場面

児童生徒の実態を把握し、授業のねらいに向かって、授業のどの場面で利用できるかを考えて、ICT機器を活用してみましょう。

○デジタルにこだわらず

模造紙や黒板など、視覚に残る教材・教具と併用してみましょう。ノートをとらせることも重要です。

○まずは使ってみよう

身近なICT機器に触れてみることから始めましょう。

**教材研究のアイデアが
浮かんでくるはず!**

鶴川教授

詳しくは、仙台市教育センター
教育の情報化研究委員会「ICT活用部会」
リンク集を御覧ください。